

平成29年第2回
産業建設常任委員会

所管事務調査報告

期 日：平成29年2月13日(月)
午前10時00分～

調査内容：住民生活課所管事務調査

- ①町の防災対策の確認
- ②防災無線室、各地区の防災倉庫視察

出席者：産業建設常任委員

国見町議会

阿 部 泰 藏 委員長	・ ・ ・ ・ ・	2
渡 辺 勝 弘 副委員長	・ ・ ・ ・ ・	3
村 上 正 勝 委員	・ ・ ・ ・ ・	5
井 砂 善 榮 委員	・ ・ ・ ・ ・	6
村 上 一 委員	・ ・ ・ ・ ・	7

平成29年第2回産業建設常任委員会
住民生活課所管事務調査報告書

平成29年2月17日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 阿部泰藏

【調査内容】

I. 町の防災対策の確認

1. 災害時における市町村・町民の役割
2. 大規模広域災害時における自助・公助-共助
3. 防災対応の原則
4. 台風10号に伴う町の対応について（10月）
5. 国見町一般災害対策及び震災対策について
6. 阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策について
国見町防災会議において地域防災計画の見直しを図り、水害ハザードマップの見直しをして3月に住民への周知を図る予定。
7. 平成28年度新たな取り組みについて（災害に対する事前対応）
12月8日より「Yahoo!防災情報」自治体からの緊急情報を始めた。
1月13日に「国見町災害警戒本部設置要綱】を定めた。
避難準備情報等の名称変更
変更前「避難準備情報」～変更後「避難準備・高齢者等避難開始」

II. 各地区防災倉庫の視察2ヶ所

1. 国見町藤田地区防災倉庫
2. 国見町石母田地区防災倉庫

以上

平成29年第2回産業建設常任委員会 住民生活課所管事務調査報告書

平成29年2月15日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 渡辺勝弘

【調査内容】

吉田住民生活課長より、一般災害時における動員配備体制の説明を受ける。まずは、災害対策本部設置前は事前配備体制を整えた後、警戒配備、特別警戒配備に移り、災害対策本部を設立後は、非常配備体制を整え、災害時における職員の動員体制を再確認できた。

また、町の防災対策の確認として、災害時における責務として町民の生命、身体及び財産を災害から保護するために、関係機関及び地方公共団体の協力を得て進めていくことを確認。そのためにも、地域に係る防災に関する計画を作成し、あわせて国見防災マップの説明も聞く。

また、国民の意識の中でも大規模広域災害時における、自助・共助・公助も「公助」に重点をおくスタイルから、「自助・共助・公助」のバランスを取るべきではないかとの回答が増加している。

【感想】

一般災害対策における、職員動員の事前配備等を聞き、当町における災害対策本部の動きは確認することができた。しかし、災害時に集合をかけたとしても全員が時間内に集合できるかは困難であり、どうしても地元職員の負担が増えることになるであろう。

災害時においては、まず「自助」自分自身が身を守ることが大切であることを自覚しなくてはならない。それにはそれなりの覚悟と勇気が必要であると考え。それが、2次災害を拡大させない方法であることを住民にも理解していただく必要がある。あわせて、「自助」の観点から最低限の家族の備蓄食料の確保、災害用品等を日頃より点検しなくてはならない。

防災倉庫に備蓄されているものは町民すべての方の分はないと確認した。そのうえで、弱者の方の備蓄と考えるべきであり、今後も続くであろう災害時に備えて、防災訓練の参加が不可欠ではないかと思われる。

以上

平成29年第2回産業建設常任委員会
住民生活課所管事務調査報告書

平成29年2月16日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上正勝

【調査内容・感想】

町の防災対策について、吉田住民生活課長から災害時における市町村、町民の役割ということで説明があった。

大規模広域災害時における自助・公助・共助については、その中でも共に助け合う自助・共助が大切であるという説明を受けた。

国見町一般災害対策及び震災対策については、動員配備体制について説明を受けた。

また、災害に対応した町の取り組みについて説明を受け、その後は、町の防災倉庫を2か所視察し、米や乾パン、水、発電機などについて説明を受けた。

あらゆる災害に備え対策を行っている事が伺えた。

以上

平成29年第2回産業建設常任委員会 住民生活課所管事務調査報告書

平成29年2月17日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 井砂善栄

【調査内容】

I. 町の防災対策の推進

- ① 災害時における市町村・町民の役割
- ② 大規模広域災害時における自助・公助・共助
- ③ 防災対応の原則
- ④ 台風第10号に伴う町の対応について（平成28年度）
- ⑤ 国見町一般災害対策及び震災対策について
- ⑥ 阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策について
- ⑦ 平成28年度新たな取り組みについて（災害に対する事前対応）

II. 各地区防災倉庫について

藤田地区、徳江地区、山崎地区、小坂地区、森江野地区、大木戸地区、大枝地区、石母田地区 計8地区

石母田地区は平成28年度国見町地域防災計画の修正に合わせて指定避難所に指定を予定している。

III. 防災倉庫配備品

- アルファ米 ○保存米 ○乾パン ○投光器付発電機 ○救助工具セット
- 毛布 ○救助箱 ○ブルーシート ○トラロープ ○レンジャーロープ
- 救助ロープ ○アルミ製リヤカー

※現場視察

役場内防災連絡室、藤田日向地区防災倉庫、小坂地区防災倉庫の3か所

【感想】

過去の災害を経験した教訓を十二分に（自助、共助）を生かし、今後も地域防災訓練を努めなければならないと強く感じた次第である。

以上

平成29年第2回産業建設常任委員会 住民生活課所管事務調査報告書

平成29年2月20日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上 一

【調査内容】 住民生活課所管事務調査

(1) 町の防災対策の確認

- 災害時の基本は自助（自身で自分を守る）・共助（家族、企業や地域コミュニティで助け合うこと）・公助（行政による救助、支援）である。
- 平成28年8月29日の台風10号に伴う町の対応、対策会議の状況。
- 国見町防災マップは随時見直しを行い、住民の周知を図っている。
- 災害に対する事前対応として、平成28年12月8日にヤフー株式会社との災害協定に基づき緊急情報配信を始めた。
- 国見町災害警戒本部設置要綱を定め、災害状況の程度により職員の動員配備体制がとられている。また各地区には85か所の防災倉庫があり配備品が保管されている。

(2) 町防災無線室・町防災対策室、藤田と小坂地区の防災倉庫の視察

【感想】

いつ起きるか分からない災害に対し、町では万全の体制を取っている。しかし災害が起こった場合は、地区全体で協力し助け合うことが被害を最小限に食い止める手段だと思う。

以上